

# Mieleが歩んだ食器洗い機の90年

1899年

カール・ミーレとラインハルト・ツィンカンが共同でMieleを創業。

1929年

ヨーロッパ初の電気式食器洗い機を開発。金属製洗浄槽に着脱可能な2段の食器用バスケット(上段:カップ・グラス・ボウル 下段:皿・大皿および中心部にナイフやフォークなどのカトラリー用コンテナ)を取り付けたものでした。



1960年

フロントオープン式の全自動食器洗い機を開発し、回転式スプレーアームを初搭載。それまで自転車を製造していたビーレフェルト工場が食器洗い機の製造工場に移管します。



1967年

ビルトインタイプの全自動食器洗い機を開発。3本の回転式スプレーアームを初搭載。

1978年

世界初のマイクロコンピュータ制御とセンサーを備えた食器洗い機を開発。



1987年

特許技術〈カトラリートレイ〉搭載の食器洗い機を開発。これによりMieleの食器洗い機の人気が不動のものとなります。スプーン、フォーク、ナイフなどのカトラリーを整然とセットできるトレイの登場で、重なりあって傷がついたり、汚れが落ちないといった問題を解決。さらに庫内を有効利用した薄い引き出し形状により、他の追随を許さない大容量の収納力を実現しました。



2001年

汚れのレベルを測定するセンサーを初搭載。

2005年

タッチセンサーコントロールの操作パネルを装備し、操作性をさらに向上させました。



## 2007年

洗浄力を損なわずに節水効果を高める〈交互噴射方式〉、状況に合わせて最適な乾燥仕上がりに導く〈センサードライ機能〉が登場。

## 2010年

《G5000シリーズ》が登場。幅、高さ、深さを調節できる〈3Dカトラリートレイ〉、庫内を明るく照らして出し入れをサポートするLED光源の〈ブリリアントライト〉、最適な乾燥仕上がりをもたらす〈オートオープン乾燥〉を初搭載。



## 2013年

《G6000シリーズ》が登場。2回のノックで扉が開く〈Knock2Open〉によって、ハンドルレスで設置できるオールドアタイプがラインアップに追加されました。また最低使用水量を6.5Lまで低減し、〈ECOフィードバック〉〈ECOスタート〉などの省エネ機能もパワーアップ。



## 2016年

《G6000シリーズ》にエコ性能を高めたEcoFlexシリーズを追加。約58分で最高Aクラスの洗浄仕上げ(ヨーロッパ基準)を実現する〈QuickPowerWash〉プログラムや、よりフレキシブルな構造になったバスケットやカトラリートレイを初搭載しました。



## 2018年

食洗機では世界初となる洗剤自動投入機能や、モバイルアプリでの操作や設定が可能になった《G7000シリーズ》を発表。最上段のカトラリートレイは〈3D MultiFlexトレイ〉へとさらなる進化を遂げ、右側のセクションにはエスプレッソカップなどの小物も収容可能になりました。



## 2019年

食洗機第1号から90年目。ビーレフェルト工場から2000万台目の食洗機が出荷されました。

※発表年はすべてドイツ本国のものです